

## 矢沢家文書目録解題

矢沢家文書は、上越市大貫の旧家、矢沢家の文書で、昭和 30 年代に原蔵者により高田図書館に寄贈され、現在は上越市高田図書館に所蔵されている。

矢沢家は同家の系図によれば、源義家の末裔で武田信玄の家臣となり、信州伊奈郡矢ノ沢に住み矢ノ沢氏と名乗った時期もあった。その後、越後に移り住み大貫で帰農した。

江戸時代中期の安永年間に、利右衛門義質（よしかた）が高田の府古町・関町・出雲町の 3 町共有の秣場（まぐさば）であった字「大六の地」（松平光長の家老小栗美作の子・大六の屋敷跡）を譲り受けて開墾した。寛政 3 年（1791）に田畑 3 町歩余の検地を受け、四ツ池新田と名付けた。

江戸時代後期には、代々の当主が大貫村の庄屋や大貫組の大肝煎を務めた記録が残っている。なお、大貫組は大貫村・土橋村・藤巻村・木田新田・木田村・薄袋村・十二原村・高畑村・石橋村・轟木村・京田村の 11 か村で構成されていた。

幕末から明治にかけての当主は矢沢綱四郎で、元治元年（1864）に大貫組の大肝煎となり、明治 8 年（1875）に新潟県大八大区の区長になった。また、明治 14 年には新潟県の県会議員にも当選し、明治 17 年から同 20 年まで大貫村外 21 か村の戸長を務めた。矢沢綱四郎は地域住民の生活の向上を願い、明治 11 年に勘左衛門新田の土地に私立農事試験場の「産殖社」を開場した。蘆粟（ろぞく・トウモロコシの一種で砂糖の原料となる）やコウゾ・ミツマタ・茶などの商品作物を栽培し、苗木を頒布した。明治 15 年には、産殖社内に「畜産社」を設け、牧牛をすすめた。また、明治 16 年からは、信越鉄道会社設立のための株主の募集等に奔走するなど、地域経済の発展に尽力し明治 29 年に亡くなった。

矢沢家文書は、上述の矢沢家の歴史から次のように江戸期の近世文書と明治以降の近代文書に大別される。近世文書には矢沢家の文書や大貫村の庄屋文書、大貫組の大肝煎文書などがあり、近代文書には矢沢綱四郎の事績に関するものが多い。総点数 1,537 点。

### 1. 近世文書

#### (1) 土地に関する文書

天和 3 年（1683）「越後国頸城郡大貫村御検地水帳」の外、塩荷谷村・湯谷村・儀明村の検地帳。天和 4 年「越後国頸城郡大貫村御検地名寄帳」や大貫村・塩荷谷村の新田開発帳など。

#### (2) 村政に関する文書

元文 4 年（1739）「下郷大貫村鑑帳」や寛政 8 年（1796）「薄袋組村々御尋ニ付書上帳」、安政 5 年（1858）「大貫組当年御年貢米大豆小物成諸色御皆済目録」など。

#### (3) 用水に関する文書

安永 4 年（1775）「金屋地内臥蛇池村々筑帳」や同年「金屋地内臥蛇池人足押切帳」、寛政 11 年（1799）「金屋吐堰積帳」など。

#### (4) 質地・借金・借米等に関する文書

この文書数が最も多い。天保 3（1832）年「大貫組明細帳」の中の塩荷谷村の記録に「当村山地ニ而田畑不足ニ而耕作之外山稼専ニ薪類は不及申ニ、青物等迄年中高田江売出申候」という一節がある。城下町の高田に近い山村では、芝山や柴山、杪山（そだやま）などの価値が高く、田畑の質地証文とともに山の質地証文が多数残されている。寛保元年（1741）「相渡シ申柴山預リ支配証文之事」や安永 5 年（1776）「預リ申杪山水入証文之事」、同年の「三年季定質物ニ相渡申柴山証文之事」など。

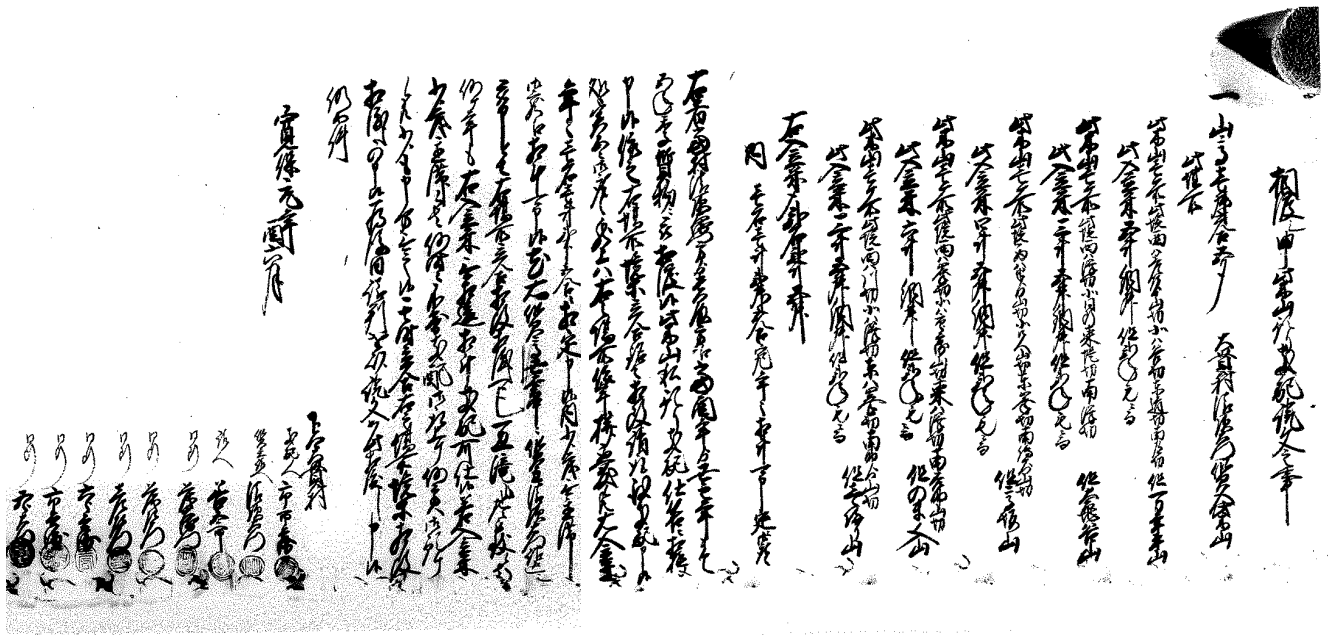
2 近代文書

(1) 矢沢綱四郎の事績や矢沢家に関する文書

矢沢綱四郎が16歳の時に書いた日記がある。文久3年(1863)「雑事日記」である。また慶応元年(1865)から明治20年(1887)にかけての綱四郎への辞令等の綴である「自現録」、明治15年(1882)「産殖社内畜殖社書類綴」、明治27年(1894)「大日本農会有功章贈与証状」など。

(2) その他の文書

明治2年(1869)(官軍薩長御石塔場所付近絵図)や、明治14年(1881)「皇国地誌編輯村誌」など。



「相渡シ申柴山預リ支配証文之事」(寛保元年6月)  
大貫村小右衛門 ← 同村支配人市郎兵衛外